



神光仏言夢物語 1773年(安永2)に沢応という人物が国土の創成を神代から筆を起こし、福生村(熊川村も含む)の歴史を具体的に叙述したものを1866年(慶応2)に書写した村の縁起書。半紙縦綴、全文86枚。福生市指定有形文化財(福生市 野嶋家所蔵)。

### ■村成立の記録

村の成立を記した『神光仏言夢物語』によると、清水但馬、野嶋兵五(庫)、長田庄玄の三人の浪人が相談して清水が福生村、野嶋が熊川村、長田が川崎村(羽村市)を開いた。そしてそれぞれ氏神を祀り、この氏神がその地の惣社となったという。三人のうち野嶋兵庫は、あきる野市の大悲願寺(だいひのがんじ)の弘法大師木像の銘に、材木施主として福生村野嶋兵庫輔の名がみえ(一五九一年(天正十九)十月十七日の日付)、同寺の過去帳にも且那として福生村熊川野嶋兵庫の名がみられる。また、熊川神社の棟札(一五九七年(慶長二)二月十六日)に寄進者の名が記されているが、その筆頭に野嶋兵庫助とある。熊川神社は江戸時代には礼拝大明神と称した村社であり、『神光仏言夢物語』という惣社にあたりと考えられ、寄進者の筆頭にその名がある点は、野嶋家が神社を創建したという本書の伝承と重なり合うことになる。

### ■棟札にみる農民の成長

熊川神社には、一五九七年(慶長二)の棟札のほかに、一六

	慶長2年 (1597) 神社再建	正保3年 (1646) 上尊再興	寛文11年 (1671) 神社再建
野 島	8名	5名	11名
石川(河)	6名	2名	11名
天 野	1名		
斉(濟)藤	3名	2名	5名
森 田	1名	3名	11名
小 金 井		1名	1名
小 石 井		1名	
山 下			2名
竹 田			1名
小 島			1名
姓 無 し	51名	83名	120名
福 生 院			1名
千 手 院			1名
小 計	70名	97名	165名
旗 本	長 塩	1名	1名
	田 沢	1名	

熊川神社棟札にみる寄進者 各年熊川神社棟札(市史資料編「寺社」132・133・134)より作成。

四六年(正保三)、一六七二年(寛文十二)の棟札が現存している。慶長二年の棟札では、七〇人中一九人が姓をもっており、野嶋姓の者八人、石川(河)姓の者六人のほか、天野姓、齋藤姓、森田姓の者がみられる。このうち野嶋兵庫助、野嶋図書助、石河市助、石河善兵衛が左表の最上段にあり寄進料も多い。姓をもっている者のうち野嶋、石河の一族は人数も多く、神社祭祀の中心になっていたと思われる、その経済力からも、当時村を主導する有力農民であったと考えられる。姓のない者も五人記されており、寄進料は少ないが、祭祀に参加する小百姓(わずかな田畑を耕す農民)の存在がうかがえる。

一六四六年(正保三)の棟札は姓のない者がふえ、寄進者数もふえているが、姓のある者の数は減っている。また寄進料も慶長二年のものにくらべ、姓のある者とならない者との格差が縮小している。このことは、小百姓が成長し有力農民の力が弱まってきたことを示している。

この傾向は、一六七一年(寛文十一)の棟札ではいっそう顕著となっている。寄進料も姓をもたない者も、姓をもつ者と同等に寄進する様子が見え、小百姓の経済力が上昇し、神社の祭祀をはじめ村内での発言力を強めていったことをあらわしている。